



# 病院NEWS

no. 351  
2013  
09/01



The Hospital News, Faculty of Medicine Kagawa University



ささえる、つながる、リードする。  
香川大学医学部附属病院  
KAGAWA UNIVERSITY HOSPITAL

香川県木田郡三木町池戸1750-1 発行人/病院長 千田 彰一

## 『都道府県がん診療連携拠点病院シリーズ』第2回 院内がん登録

### 診療情報管理室

毎年何人の人ががんによって亡くなられ(死亡数)、どのくらいのがんが新たに診断され(罹患数)、がんと診断された人がその後どのくらいの割合で生存しているか(生存率)、といったがんの情報は、国や地域のがん対策を立案したり評価したりするのに大変重要です。このようながんの情報の元となるものが「がん登録」です。

がん登録の種類には3つあり「院内がん登録」は医療機関単位で(主に施設のがん診療の状況把握を目的)、「地域がん登録」は自治体単位で(その地域での罹患の把握を目的)、「全国臓器別がん登録」は学会・研究会で(診断や治療のガイドライン作成等を目的)、がんの診断、治療、生存率等の情報を集める仕組みです。

院内がん登録では、病院で診断・治療された全てのがん患者さんの情報を、診療科を問わず全て集め、その病院のがん診療がどのように行われているか明らかにすることを目的としています。院内がん登録データは地域がん登録にも情報を提供し、登録数やその精度の向上といった情報の基盤にもなります。院内がん登録の実施は、がん診療連携拠点病院の指定要件であり、標準登録様式により標準化された形式・定義によって登録し、年1回国立がん研究センターがん対策情報センターに情報を提供することとなっています。

登録項目の内容は、ICD-Oと言われる国際疾病分類腫瘍学に定義されているコードによりがんの部位や組織を分類し、がんの進行具合を表す病期分類については、国際的に使用されているUICC TNM分類を使って登録しています。他にもどのようなきっかけにより、がんが発見されたかや手術等の治療内容などが標準登録様式の項目にあります。

標準的な院内がん登録の普及により、行政・国としては、他国のがん登録・がん対策と比較し対策を立案することやがん診療連携拠点病院のがん診療の指標を得ることができます。次に、医療施設としては、他の施設との比較(ベンチマーク)が可能になり、新規のがん患者さんの受診数も把握することができます。また、患者さんとしては、どの施設でどれくらい患者さんを診ているかがわかり、セカンドオピニオン等の参考にもなることができます。しかし、がん登録のがん対策への利用実績はまだまだ少なく、今後考えていかなければならない課題でもあります。

当院では院内がん登録を平成19年3月より開始しており、年間約1300~1400件の登録を行っています。登録担当者は国立がん研究センターがん対策情報センターが行う研修を受講したものが登録業務を日々行っています。都道府県がん診療連携拠点病院である本院が事務局となり、年2回香川県がん診療連携協議会院内がん登録部会の下部組織に当たる、がん登録実務者会を開催しています。この会では、県内のがん診療連携拠点病院の登録実務者に集まっていただき、全国集計(香川県)データについての検討・意見交換や登録実務に関する疑問・質問や研修会報告等、県内の登録精度向上に繋げています。平成21年4月より、香川県立がん検診センター内にあった、香川県地域がん登録室を本院内に移しました。県内の院内がん登録の整備や市中病院の協力もあり、香川県地域がん登録の精度も着実に上がっています。

現在、がん登録の法制化とそのため体制整備の動きが活発になっており、がん登録への関心が高まり、必要性が問われています。都道府県がん診療連携拠点病院として県内のがん登録精度向上にこれからも努力して参りますので、今後ともがん登録へのご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

### がんに関するご相談のことなら **がん診療連携拠点病院**

がんに関する相談について患者さんやご家族のほか、どなたでも無料でご利用できる窓口です。下記の病院で診察を受けていない方もご利用できます。

- 香川大学医学部附属病院 がん診療相談支援室 ☎087-891-2473(直通)
- 香川県立中央病院 がん相談支援センター(地域連携室内) ☎087-835-2222(内線317)
- 高松赤十字病院 がん相談支援センター ☎087-831-7101(内線1171)
- 香川労災病院 医療・看護相談支援センター ☎0877-23-3111(内線3100)
- 三豊総合病院 がん相談支援センター ☎0875-52-3366(内線1170)



がん征圧  
イメージキャラクター  
ソウキくん

はじめまして、脳卒中診療部は平成25年5月に開設された新しい診療部門です。各診療科の枠をこえて、特に脳卒中を専門的に診療するチームとして開設されました。

### 診療スタッフ

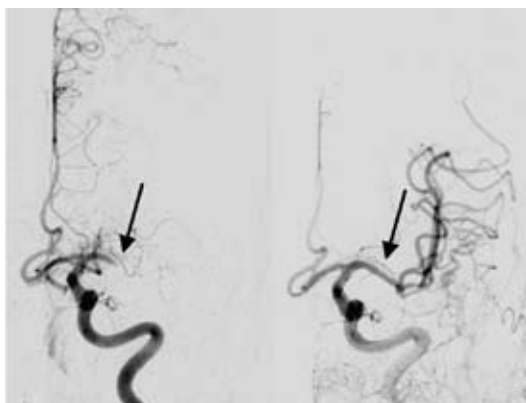
現在は、田宮隆診療部長、川西正彦副部長、新堂敦先生、岡内正信先生などの脳神経外科、石澤真先生（循環器・腎臓・脳卒中内科）、河北賢哉先生、大久保修一先生（救命救急センター）らの多診療科から兼任で構成されています。今後脳卒中診療に興味のある研修医や医員を受け入れて適宜変更されていく予定です。



現在の脳卒中診療部医師

### 診療内容

高度な治療が必要な脳卒中に特化して診療を行っています。この数年で我が国の脳卒中（特に脳梗塞）の急性期治療は大きく変化しています。はじめに脳梗塞発症3時間以内のrt-PA静注療法が2005年に承認されました。その有効性が認められてきましたが、現実的には脳梗塞症例の数%にしかな行われていません。その後、rt-PA静注療法の適応外または発症から3時間から8時間までの脳主幹動脈閉塞に対する脳血管内治療（機械的血栓回収療法）としてMerciリトリーバーが2010年より承認されました。しかし、この治療は脳血管内治療のトレーニングを積んだ一部の医師または施設でしか行うことができません。また、Merciリトリーバー以外にもPenumbra systemも承認され、さらに今後も複数の新しい器材（ステントリトリーバー）が承認される見込みです。海外ではすでに多くの症例に使用され、特にその再開通率の高さは、非常に高い評価を得ている器材であり、本邦においても期待されています。また、昨年8月からはrt-PA静注療法も発症3時間以内の脳梗塞から発症4.5時間以内に適応時間の拡大が承認されました。脳卒中診療部では、脳血管内治療専門医を4名配し、rt-PA静注療法のみならず、rt-PA静注療法の適応外となる症例もMRや脳血流PET等の画像所見を見極め、積極的に脳血管内治療による機械的血栓回収などの高度な治療を施行していく予定であります。今回の診療部開設以前からも、脳神経外科では救命救急センターと協力して積極的に脳血管内治療を行ってきましたが、これからはさらに救命救急センター、循環器・腎臓・脳卒中内科と協力して、特に一般病院では治療困難な専門的知識と技術を要する症例に対して診療を行っていきたいと考えています。



▲左:左中大脳動脈の急性閉塞  
右:血栓回収療法によって再開通が得られている。

### 将来像

脳卒中の診療は、超急性期の治療から慢性期のリハビリやさらには在宅診療までの非常に長い期間での診療・治療が必要となります。脳卒中診療部では、その中でも超急性期から亜急性期までの専門性の高い期間での治療を行う予定です。現在は脳卒中患者受け入れの窓口となる可能性の高い救命救急センターとも協力をして急性期治療を行い、その後のリハビリなどの回復期・維持療法については、地域連携室とも密に相談をして脳卒中シームレスケアクリティカルパスを活用し、地域の回復期リハビリテーション病院などと連携をとり診療を行っていきたいと考えています。

おわりに脳卒中は、罹患率の非常に高い疾患であり、医師であれば一度は必ず遭遇することがあります。急性期の治療は初期対応が患者の生命や機能予後を左右する可能性もあり、若い研修医の先生にも一般的な知識として是非学んでもらいたい疾患です。専門研修を希望される研修医や若手医師の先生は、是非ご連絡下さい。

地域の先生方で、脳卒中治療でお困りのことがありましたら、脳卒中診療部までご連絡下さい。

## 漏斗胸(ろうときょう)

小児成育外科 科長 下野 隆一

漏斗胸とは胸のまん中が凹んでいる病気です。多少胸が凹んでいても気にならない人もいれば、ほんの少し凹んでいても必要以上に気になる人もいらっしゃいます。ほとんどの人は乳幼児期から胸が凹んでいます。小学生の頃から胸の凹みが目立ってくる人もいます。漏斗胸は胸の骨の変形と言うよりは胸と肋骨をつなぐ肋軟骨の変形が原因と考えられています。

漏斗胸の患者さんは「見た目以外の症状を訴えないことが多いようですが、よくお聞きすると風邪をひきやすい、喘息と言われた、体力がないという方も見受けられます。凹みがひどい場合は心臓や肺への圧迫などにより、動悸・息切れ、不整脈などが現れる場合があります。また、外見的に胸が凹んでいると本人の心に大きな問題を残すこともあります。

心臓や肺の圧迫症状があれば手術が必要となりますが、それほどでなくても人前で裸や薄着になることを恥ずかしがる、内気になるなど、胸の凹みが精神発育に障害を与える場合もあり、本人や両親の希望があれば手術をしてもよいと考えられています。最近、漏斗胸の手術はナス法を行うことが多くなりました。この手術は凹んでいる胸骨の裏側に金属製のバーを入れ、裏側から前方へと胸骨を押しだして矯正します。その状態で胸骨を固定し、3年後くらいにバーを抜きとる、というものです。この方法は以前の方法と比較して手術創が目立ちにくい、入院期間が短いなどの利点があります。手術を受けた患者さんは「見た目がよくなった」だけでなく、「体力がついた」「風邪を引きにくくなった」など、手術前より元気になることが多いようです。

手術は幼児期から大人まで可能ですが、多くの患者さんは6-15歳くらいで行っています。当院小児成育外科ではこどもだけでなく高校生以上の方でもご相談を受けておりますので、漏斗胸でお悩みの方は一度受診されることおすすめいたします。

毎日新聞「四国健康ナビ」 H25.7.31掲載

## 足の痛みは全身の動脈硬化の窓

心臓血管外科 教授 堀井 泰浩

歩くと足が痛くなることはよくあることですが、立ち止まると消え、また歩けるようになるのを間欠性跛行といい、しばしば足の動脈に強い動脈硬化性変化(PAD)が来ています。頭から足の先まで全身くまなく張り巡らせている動脈は全て動脈硬化が来る可能性があり、歩くと足が痛い人に全身の病気が隠れていることもしばしばあります。動脈硬化の原因は、高血圧、コレステロールが高い高脂血症、糖尿病といった生活習慣病が三大要因で、喫煙も大きく関係します。そのような素因がある人には動脈硬化性変化が大なり小なり起こっています。

われわれ心臓血管外科医は、心臓の血管(冠動脈)に狭窄・閉塞や、大動脈が拡張した動脈瘤を治療していますが、そういった患者さんにはしばしば脳の血管や足の血管にも病気があります。逆に、足が痛いから検査をしたところ、全く症状がないのに心臓や頭の血管に強い動脈硬化が見つかることも多く、その頻度は4割を越えるとされています。そして一旦そういったPADが判明すると、5年で三分の一、10年で半数が死亡することもわかっていて、たとえば乳がんより成績が悪く、大腸がんと同等と考えられています。

ですから、単に足の血管に止まらず全身の病気を見つけて適切な治療をすることが必要です。厄介なことに動脈硬化が起こると足の痛みがすぐに出るわけではなく、潜んでいることも多く、高血圧、高脂血症、糖尿病、喫煙といった要因がある人は検査を受ける必要があります。幸い、手と足の血圧を測定するだけといった簡単な検査(ABI)で、隠れている病気も発見できます。

痛みがある人はもちろん、50才以下でも糖尿病に加えて他の一つでもある人、50-70才では喫煙歴や糖尿病がある人、高齢者、できれば65歳以上は、たとえ痛みなどがなくても足の血圧を測るABI検査をして血管専門医を受診することが勧められています。

毎日新聞「四国健康ナビ」 H24.2.1掲載分を一部改稿しました



## 第13回香川大学医学部・香川県連絡会議を開催

総務課

去る7月22日(月)に第13回香川大学医学部・香川県連絡会議が、医学部管理棟5階大会議室で開催されました。

今回の会議では、議題として、本学からは「災害発生時の対応に関する地方公共団体との意見交換について」、「香川医療圏における医療政策の方向性について(がん対策について)」及び「香川大学医学部(旧香川医科大学)卒業生の県内主要医療機関への就職促進に関する香川県の具体的な方策について」並びに香川県からは「精神保健福祉行政への協力について」、「香川県地域医療支援センター等について」及び「感染症対応医師の養成について」が提案され、活発な議論がなされました。

また、本学から「地域連携精神医学講座(寄附講座)の活動等」及び香川県から「新県立中央病院について」が、報告されました。

最後に、本学と香川県が今後も情報交換し、協力していくことが再確認され、閉会しました。



## 薬学生の実習受け入れについて

薬剤部

薬学部は6年制になりました。

共用試験に合格した薬学部5年生が、病院薬剤部と調剤薬局で各11週間ずつ、医療人としての知識・技能・態度等を向上させるために実務実習を行います。

将来の医療の一端を担う薬剤師を育成するために、当院でも、ふるさと実習(香川県出身者)を行うなど、中・四国近畿各薬科大学から年間約20名の実習生を受け入れています。

この実習では、社会で真に役立つ薬剤師を育成するため、医療現場の協力はもちろんのこと、患者さんのご協力が必要不可欠です。本院の「薬学生実務実習」へのご理解とご協力を願いますとともに、ご意見なども頂戴できれば幸いです。

## 臨床研究に関するご案内

医学部倫理委員会委員長

医薬品等臨床研究審査委員会委員長

香川大学医学部附属病院では、診療に伴って取得した患者さんの貴重な個人情報を含む記録や尿・血液等の検査試料、生検組織(内視鏡検査で検査のために採取した組織等)又は抽出組織等の試料が発生します。

それら記録試料等を本院は、医療機関としてだけでなく、教育研究機関として所定の目的に利用させていただきたいと思っておりますので、患者さんのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

前向き研究(研究を立案、開始してから新たに生じる事象について調査する研究)に患者さんの情報を利用する場合は、書面により患者さんの同意をいただくことといたします。後向き研究(過去の事象について調査する研究)の場合は下記に示しております。

利用目的の中に同意しがたいものがある場合は、1階外来ロビー内個人情報相談窓口または各診療科までお申し出ください。特段のお申し出がない場合は、上記の利用目的のために患者さんの個人情報を利用することに対して同意が得られたものとさせていただきます。

掲示終了日	研究課題名	研究責任者(所属・氏名)
H26.03.31	死亡例におけるアルコールと外傷の調査研究	法医学 教授 木下 博之
H26.03.31	溺死の診断における蝶形骨洞内貯留液の性状に関する研究	法医学 教授 木下 博之
H26.03.31	酸素標識ガスPET検査時間短縮の試み	放射線部 診療放射線技師 前田 幸人
H26.12.31	非小細胞肺癌・高悪性度腺の予後に関する研究	呼吸器・乳腺内分科 助教 奥田 昌也
H26.12.31	ステロイド早期減量プロトコルの移植後骨粗鬆症への有効性に関する研究	循環器・腎臓・脳卒中内科 病院助教 西岡 聡
H26.12.31	正常高値アルブミン尿を有する高血圧合併腎移植ドナーの安全性に関する研究	循環器・腎臓・脳卒中内科 助教 祖父江 理
H26.12.31	腎移植後再発IgA腎症リスク因子に関する検討	循環器・腎臓・脳卒中内科 助教 祖父江 理
H26.12.31	ガドキセ酸ナトリウム肝造影ダイナミックMRI～動脈相画像におけるtruncation artifact出現と検査条件との相関性に関する後ろ向き研究～	放射線医学講座 教授 西山 佳宏
H27.03.31	多施設間の統合退院サマリーデータベースの構築	医療情報部 教授 横井 英人
H28.03.31	各種ヘモグロビン誘導体測定値の法医診断学的意義に関する研究	法医学 教授 木下 博之
H29.03.31	がん治療における口腔合併症の観察研究	歯・顎・口腔外科 助教 大林 由美子
H30.03.31	造血幹細胞移植患者の移植前後における身体機能と移植合併症、栄養状態との関係	リハビリテーション部 理学療法士 田仲 勝一
H30.03.31	低用量rasburicase(RSB)による高リスク腫瘍崩壊症候群(TLS)の適切なコントロール方法の確立	内分泌代謝・血液・免疫・呼吸器内科 教授 松永 卓也

## イベントカレンダー H25.9月 予定表

日時	時間	場所	名称及び内容	担当	連絡先
9/7 土	10:00	病院地下1階 カンファレンスルーム	新生児蘇生法普及事業インストラクター養成コース	小児科学講座	募集締切終了
9/13 金	19:00~20:00	JRホテルクレメント高松	香川大学麻酔科創立30周年記念講演会	麻酔・ペインクリニック科	(087)891-2223
9/14 土	9:00~17:00	サンポートホール高松	日本麻酔科学会中国・四国支部第50回学術集会	麻酔・ペインクリニック科	(078)306-5945
9/14 土	15:30~17:00	サンポートホール高松 4階第1小ホール	第50回日本麻酔科学会中国・四国支部学術集会記念市民公開講座「痛みの治療の最前線」	麻酔・ペインクリニック科	(078)306-5945
9/14 土	9:20~16:30	アルファあなぶきホール 小ホール棟5階 多目的大会議室(玉藻)	第11回 緩和医療に関する集中セミナーin香川	腫瘍センター	(087)891-2075
9/20 金	14:00~16:00	病院地下1階 オリーブの郷	がん患者サロンセミナー	がん診療相談支援室	(087)891-2473
9/29 日	14:00~16:15	かがわ国際会議場	平成25年度 日本肝臓学会 肝がん撲滅運動-市民公開講座-	消化器・神経内科	(087)891-2156

平成26年度 **看護職員募集** 受付期間 平成25年7月1日(月)~平成26年1月14日(火)

試験日	応募締切日
11月29日 金	11月19日 火
平成26年1月24日 金	平成26年1月14日 火

**看護師・助産師 85名募集**

お問い合わせ先 087-891-2320(看護管理室)

編集委員会 (50音順)

石井(看護), 岩瀬(病棟), 岡田(総務), 鬼村(医事), 梶川(検査), 加藤(放射線), 唐木(外来), 白神(麻酔), 芳地(薬剤), 松本(看護), 安友(管理), 横井(情報), [委員長 千田病院長]